

科目名	基礎看護学特講 I			分野・必選別・単位数	専門科目 (基礎看護学)	選択必修	2単位
担当教員	◎准教授 新井直子 准教授 砂見緩子						
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	前期	授業方法	講義
授業の概要	看護学は実践の科学といわれる。看護の現象をとらえ、看護の対象となる人々と生活の営みを理解し、その人々の健康とQOLの向上に資するために、看護実践の技法を開発したり、看護サービスの質の向上に必要な知識を開発し体系化する学問である。基礎看護学には、看護とは何かという看護の本質(看護理論、看護の歴史)と、看護の対象者のとらえ方、援助の方法論、看護を提供するシステムや管理が含まれる。ここでは基礎看護学の視点から、看護学を発展させていくための基礎を学ぶことを目的として、看護理論を読み直す。						
授業の到達目標	1.基礎看護学領域の研究の動向及び課題について知識を有している。 2.看護の歴史と看護理論について概説することができる。 3.2.を通して、自己の看護経験から得た体験や経験、日々の様々な場面をフィールドとして反省的に評価することができる。						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	科目概説 基礎看護学領域の動向と課題についての概要を知ることができる。 今、読み直すべき看護理論を選択することができる。 【キーワード】看護学, 基礎看護学, 関連諸科学			
	2	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	看護の本質, 対象, 援助方法, 看護システムについて, 看護史と看護理論から評価することができる。(1) 【キーワード】看護理論, 看護, 人間, 健康, 生活, 環境, 看護技術, 人的資源, 情報			
	3	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	看護の本質, 対象, 援助方法, 看護システムについて, 看護史と看護理論から評価することができる。(2) 【キーワード】看護理論, 看護, 人間, 健康, 生活, 環境, 看護技術, 人的資源, 情報			
	4	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	看護の本質, 対象, 援助方法, 看護システムについて, 看護史と看護理論から評価することができる。(3) 【キーワード】看護理論, 看護, 人間, 健康, 生活, 環境, 看護技術, 人的資源, 情報			
	5	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	看護の本質, 対象, 援助方法, 看護システムについて, 看護史と看護理論から評価することができる。(4) 【キーワード】看護理論, 看護, 人間, 健康, 生活, 環境, 看護技術, 人的資源, 情報			
	6	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	看護の本質, 対象, 援助方法, 看護システムについて, 看護史と看護理論から評価することができる。(5) 【キーワード】看護理論, 看護, 人間, 健康, 生活, 環境, 看護技術, 人的資源, 情報			
	7	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	看護の本質, 対象, 援助方法, 看護システムについて, 看護史と看護理論から評価することができる。(6) 【キーワード】看護理論, 看護, 人間, 健康, 生活, 環境, 看護技術, 人的資源, 情報			
	8	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	看護の本質, 対象, 援助方法, 看護システムについて, 看護史と看護理論から評価することができる。(7) 【キーワード】看護理論, 看護, 人間, 健康, 生活, 環境, 看護技術, 人的資源, 情報			
	9	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	看護の本質, 対象, 援助方法, 看護システムについて, 看護史と看護理論から評価することができる。(8) 【キーワード】看護理論, 看護, 人間, 健康, 生活, 環境, 看護技術, 人的資源, 情報			
	10	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	看護の本質, 対象, 援助方法, 看護システムについて, 看護史と看護理論から評価することができる。(9) 【キーワード】看護理論, 看護, 人間, 健康, 生活, 環境, 看護技術, 人的資源, 情報			
	11	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	看護の本質, 対象, 援助方法, 看護システムについて, 看護史と看護理論から評価することができる。(10) 【キーワード】看護理論, 看護, 人間, 健康, 生活, 環境, 看護技術, 人的資源, 情報			
	12	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	自己の看護経験から得た体験や経験, 日々の様々な場面をフィールドとして反省的に評価することができる。(1)			
	13	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	自己の看護経験から得た体験や経験, 日々の様々な場面をフィールドとして反省的に評価することができる。(2)			
	14	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	自己の看護経験から得た体験や経験, 日々の様々な場面をフィールドとして反省的に評価することができる。(3)			
15	新井 直子 砂見 緩子	准教授 准教授	講義を振り返り, 習熟度を確認し, 述べるることができる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストおよび関連文献の次回授業部分を事前に読み, 課題意識を持って授業に臨むこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ, 文献等を利用し, 次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	特に定めない。授業の中で適宜紹介する。						
参考書	Carol R. Taylor, Carol Lillis et al.: Fundamentals of Nursing: The Art and Science of Nursing Care 8th edition. Lippincott Williams & Wilkins, 2010. Chinn, P. L., & Kramer, M. K.: Integrated Theory and Knowledge Development in Nursing (8th Ed.), Elsevier Mosby, 2011.						
成績評価の方法および基準	プレゼンテーション50~70% (妥当性・適切性・資料の作成・発表の内容と方法), レポート30~50% (論理性・一貫性・適切性)で評価する。						
その他履修上の注意事項	レポートに対し, 講義の中での解説等のフィードバックを行うので活用すること。 カリキュラムマップのDP2が, この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示しているので確認すること。						